



NOBEOKA
ART EXHIBITION

市 71st
美 展

いちばん近いアート展

入賞・入選
目 録

特 選

延岡市長賞

ホームステイ「玄関にて」(アクリル)

山崎郁夫

講 評

しっかりとした構成力をもとに構図が組み
まれ、無機質なコンクリートの壁と有機的な
沸き立つ雲の対比が素晴らしく、特選・
延岡市長賞に選ばせていただきました。



準特選

宮崎県知事賞



夢想(油彩)

上原順子

講 評

ブルーを基調色とした画面のなかにイエローの色調を上
手く構成し、手の表情によって物語性を感じさせる完成
度の高い作品です。

準特選

延岡市教育長賞



戦後の日本「笑顔」戦火のウクライナ「悲涙」(水彩)

眞田昌良

講 評

戦後日本のご自身の体験とウクライナの悲惨な現状をダブ
ルイメージし、光り輝くひまわりを希望のシンボルとして中央
に構成した社会性のある力作でした。



絵画部門審査員

古本 元治 (2回目)
東亜大学芸術学部客員教授
九州産業大学名誉教授

入賞作品

無鑑査

奨励賞

市原哲郎

森の中で(水彩)

後藤光雄

あたごやま(アクリル)

旭化成(株)延岡支社長賞

奨励賞

河野壘

歓びの空へ22(油彩)

八木隆幸

まるの詩・2021-05-25(油彩)

延岡商工会議所会頭賞

奨励賞

福島千明

アマビエ。(パステル)

田中節子

薫風(油彩)

清本鐵工(株)社長賞

奨励賞

梅木三千世

北大手門(日本画)

米良俊男

交感(アクリル)

延岡市歯科医師会長賞

奨励賞

田中千代子

ストレスからの解放(パステル)

延岡市美術展覧会実行委員長賞

努力賞

澤今朝美

じいちゃんのぞうり作り(油彩)

プラチナ賞

塩月眞

幻影「なつかしき延岡城山の天守台跡に立つ牧水最後の旅姿」(アクリル)

入選者

池田見一	原爆ドームが語るもの。それは—	油彩
岩崎奈美子	はるいろ	油彩
上山晴久	春を待つ(2022)	油彩
大坪眞佐子	祈りの祖国	油彩
大山久雄	熱き心	油彩
落合直文	あじさいロード	油彩
甲斐健二	渓谷の世界	油彩
甲斐トシ子	時をうつ鐘つき堂	アクリル
川内寧彦	早暁・葉月の頃	水彩
川崎圭子	黎明の春	油彩
木村マシ子	風(五月)	油彩
久保ケイ子	新緑の薫り(裏磐梯)	油彩
窪田利重	どこにでもある幸せ(ウクライナに馳せる)	油彩
佐多光夫	屋根瓦の職人の技芸	水墨画
佐藤幸義	五ヶ瀬川渓谷	油彩
白石幸代	つなぐ	油彩
白石元郁	言霊	油彩

高山好二	爽秋	水彩
戸高節子	浅き夢	パステル
長友幸子	迷い	油彩
成合英子	沼杉	水彩
野村幸枝	しゃぼん玉	油彩
原浪代	ヤッホー！！	アクリル
日高すみ子	祈願瀧	油彩
廣瀬寅之介	石こうのある静物	油彩
右田昭二	緑青	水彩
三谷文男	円空佛	版画
南義信	フィヨルドの岸辺で	パステル
蓑毛覚	彩雲	アクリル
宮井久美子	まだまだ現役	水彩
森本洋通	anger(怒り)	水彩
柳田佳代	クレパス金魚	パステル
横山優	大崩山頂	油彩
吉田千代子	花に問え	水彩
陸丸敦子	汐汲み場	油彩



特 選

延岡市長賞

兜(彫刻)

甲斐卓雄

講 評

画面の各部に微妙な盛り上がりをつけて龍が迫ってくる迫力や鱗のディテールが見事です。

※甲斐卓雄さんは、今回で三度目の特選を獲得されたことにより、無鑑査となりました。

準特選

延岡市文化連盟会長賞

さがり花(友禅染)

壺岐陽子

講 評

さがり花の儂い生命と繊細な姿が着物に表現されています。



彫刻・工芸部門審査員

筒井 知徳 (2回目)
九州産業大学造形短期大学部 高大接続アドバイザー
公益社団法人 福岡県美術協会監事

入賞作品

無鑑査

奨励賞 延岡市議会議長賞	川崎えつ子	老いてなお美しく(刺繍)	中村有子	金彩幾何紋皿「小鳥の楽園」(陶芸)
奨励賞 夕刊デイリー新聞社賞	藤岡郁子	積木あそび(パッチワーク)	芝行則	風が生まれる(彫刻)
奨励賞 延岡市西臼杵郡薬剤師会長賞	中野小百合	一樹百穫(彫金)	武田弘子	夜の彩り(友禅染)
努力賞	是則理恵	ハートの贈りもの(パッチワーク)	原辰義	聖地への古道(剪画)
プラチナ賞	佐藤幸子	ウメの花(ちぎり絵)		

入選者

秋本富美子	盛籠	竹細工
伊作とよ子	五黄の寅	パッチワーク
石川ハル子	だまし絵(かくれんぼ)	パッチワーク
井上敦	印金	印金
上村洋子	TOKYO2021	陶芸
岡田洋子	石菫	ちぎり絵
越智理恵子	彫漆の世界 皐月の華	漆
甲斐義晴	竹の館	竹工芸
草野節子	日日是好日	パッチワーク
工藤武人	黒輝土瓶	陶芸
黒木恵美代	照らす	糸かけアート
黒木英勝	金箔溶変茶碗(日向)	陶芸
関武司	八角壺	陶芸
田上多津美	ネモフィラ	友禅染
堤和子	はやぶさ	パッチワーク
鳥原勝行	光と花と香りのコラボ	陶芸
濱田すず子	マリンブルー	パッチワーク
福田純子	アルクトゥールス	糸かけアート
古川友江	鳥の種	切り絵
松田 みずほ	竹林の春	パッチワーク
森福子	野に咲く白いバラ	ちぎり絵
森本陽子	夏まつり	ミニチュアジオラマ

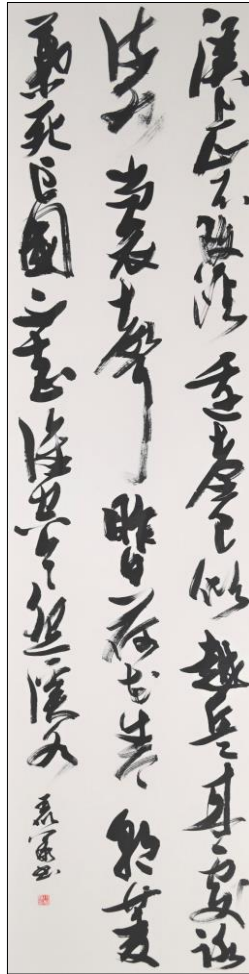
書道部門

特 選

延岡市長賞

越来溪

小野静



講 評

張瑞図を基調とした行草三行の作は、運腕大胆から生まれる造形の躍動感と文字群、落款まで一貫した気脈、錬度の高い作。

準特選

延岡市教育長賞

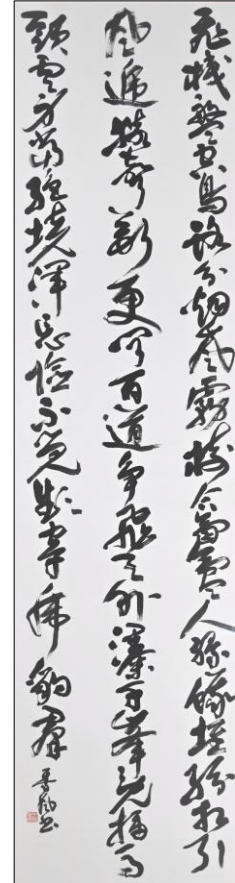


幾山河他一首

伊藤由美子

講 評

冴えた線條、美しく流麗の中に表現された集団と余白の美、大字の大胆な散らし、格調ある作。



準特選

延岡市文化連盟会長賞

入連雲棧

甲斐かおり

講 評

穏やかな線條で淡々と書き進めた安定感のある作。王羲之「十七帖」の線の省略を入れると一味違った作風が生まれるかもと期待しています。



書道部門審査員

二宮 欣山 (4回目)
日展会友・読売書法会理事
日本書芸院参与

入賞作品

無鑑査・招待作家

奨励賞

小坂千代子

韋荘詩

無鑑査・招待作家

西村香枝子

暮春客塗即景

旭化成（株）延岡支社長賞

奨励賞

吉岡陽子

過枝江縣

無鑑査・招待作家

山浦秀子

過横顧山人草堂

延岡市医師会長賞

奨励賞

飯干朗

過枝江縣

無鑑査

尾崎真人

漢語

延岡市美術展覧会実行委員長賞

努力賞

渡邊康子

寄李提舉

無鑑査

西村寿洋

過谷亭

プラチナ賞

上野和子

春の野に

無鑑査

城戸雅子

夏完淳の宝帯橋より

無鑑査

西村亜希子

對雨書懷

招待作家

原田さゆり

行く春

招待作家

大塚洋子

旅次石頭岸

入選者

荒巻孝行
安藤チカ子
上杉秀子
植田紘士
植野幸雄
植野洋一
牛迫孝子
尾池綾美
岡村公子
小田千穂
甲斐千尋
甲斐睦子
甲斐洋子
川越幸枝
河内真弓
城戸裕行
興梠ふみ

学は須静かなり
和楊逸人桃林遷居之作
鴛鴦湖
何良傳詩
姚広孝詩
李暉詩
高青邱詩
詠夢
楼に寓って梅花を見る
白鳥は
車攻
松蘿谷
李澄中詩
王嘉謨詩
梅花絶句外
東西門行
白露か

田口智子
谷口隆幸
丹波のり恵
難波和恵
西田幸市
西田登美子
平野優子
山口幸代

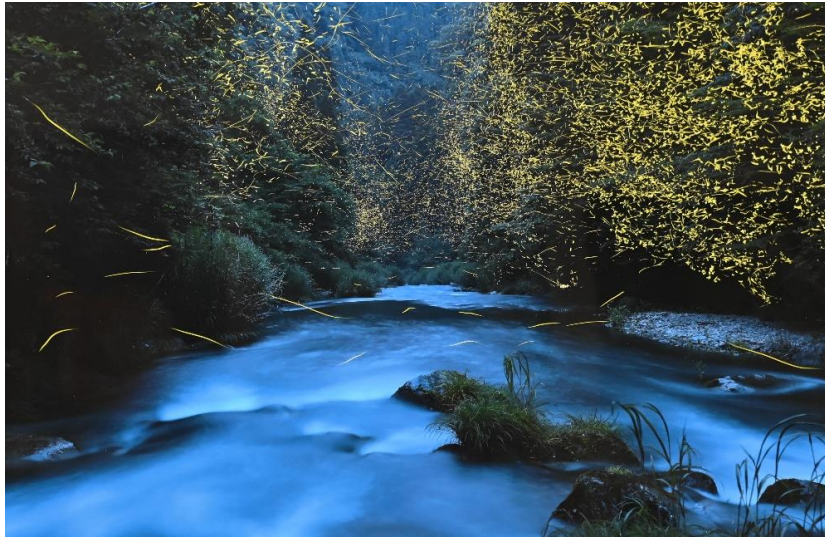
心あらば
何紹基詩
宿青溪
春日
高青邱詩
園居
舟行
感遇



写真部門



特選
延岡市長賞



渓谷のイルミネーション

甲斐靖一

* 甲斐靖一さんは、今回で三度の特選を獲得されたことにより、無鑑査となりました。

講評 近年よく目に入る乱舞するゲンジボタルを撮影した作品ですが、これほど素晴らしい情景描写がなされた写真に出会えたのは初めてと言ってもよいほどの出来映えです。ホタルの乱舞する光と下を流れる川との構成バランス、ほど良い明るさ(暗さ)で描写された風景の中に浮かぶ無数の光、立体感、奥行き感を伴って、画質の優れた素晴らしい風景作品となっています。

準特選

宮崎県教育長賞



旅立ち

伊東英一

講評 健やかに微笑む少女の傍らに、幼児期に元気に遊ぶ姿をスナップした写真を添えて、時間をひとつにまとめた記念写真といってよいものですが、人物や道具の配置など、構成の巧みさなどにより、単なるファミリー写真に終わらない優れた作品となっています。

準特選

延岡市教育長賞



二人だけの径

川端章

講評 全体に早春の空気感が漂う描写が素晴らしい。しかしただそれを撮影しただけでは雰囲気を描きただけの平凡な風景写真で終わるところを、必要な場所に赤い傘をさす人物を配置して立体感を持たせるなど、にくい演出が光る作品に仕上がっています。



写真部門審査員

栗林 慧 (3回目)
生物生態写真映像作家

準特選
延岡市文化連盟会長賞



銀河アイランド
白谷俊一

講評 上空に煌めく湾曲した銀河と地上の景色とをうまく合わせた構図が素晴らしい。ただ欲を言えば、銀河が中心の構成であることを考えると、地上をもう少し暗くした方が、さらに星座が目立つことになり、引き締まった作品になっていたはずである。

準特選
延岡市文化連盟会長賞



婆ちゃんの秋
戸高一

講評 人物写真の善し悪しはモデルによるところが大きいと言われますが、この作品ではそれだけではなく、この作業が見える動作や表情から、この老女がこれまで歩いて来た人生を思い起こさせるような、じっと見ていて、なにかを感じさせてくれるものが映し出されているような気がします。

入賞作品

無鑑査

奨励賞

児玉美智子

花いかだ

延岡市議会議長賞

後藤司郎

岩床

奨励賞

富山隆志

早春の陽だまり

延岡市医師会長賞

高橋ミサ子

眼力

奨励賞

酒井佳紀

優しい時間

宮崎日日新聞社賞

奨励賞

松尾香代子

青春

延岡農業協同組合代表理事組合長賞

奨励賞

胡元一夫

朝の漁港

センコー（株）東九州主管支店長賞

奨励賞

阿部美香

おやつ作り

延岡観光協会賞

奨励賞

小松清春

流鏝馬

ケーブルメディアワイワイ賞

奨励賞

後藤秀彦

梅花採光

延岡市美術展覧会実行委員長賞

努力賞

島田真由美

福の神に抱かれて

プラチナ賞

佐藤卓志

溪流の秋

入選者

赤池泰男
芥美奈子
飯田かおり
池田晃二
植野浩人
歌津賢治
内倉政子
江藤寿美
大川内かつ子
大津由吏江
大山久雄
岡崎宏之
岡野勉
押方徹
甲斐啓一
甲斐孝一
甲斐民人
甲斐直志
笠村陽一
亀居英幸
川越洋治
川崎由美子
河野康哉
勘米良千恵美
菊池貢
清永俊
久保 徹
古谷信行
後藤雅之
酒井義満
佐藤孝夫
澤由美子
鋤本勝晃
杉本武揚
雀ヶ野秀憲
高島章碩
田中芳典
田上修二郎
田上誠
千葉雄一

花の美
朝日に願う
長田ファミリー
人馬一体
お家へかえろう
星夜に喰む
迂闊にも
眠れぬ夜に
静寂
涼を求めて
静寂な刻
ホタルの川
水面の親子
氷の哲学者たち
想いを乗せて
黄金の絨毯
祈願！！無病息災
惜春
イエー！ちゃんと撮れよ
彩岩
祠の中で密談中
暁の霧島山
青春万歳
親愛
蒼の光芒
峡谷の蛍
寂寞の街
君とみたサクラ色
巨木と妖精
春のコラボ
陽が染める。
森の住人
夕暮のこいのぼり
狼月
ビッグカップル
清流の眠り
朝霧の川を渡る
音も無く時は流れる
花びら舞い散る
秋桜畑日没寸景

年森徹
富山恵
中島拓三
長友伸洋
長友道生
那須重人
新名光子
馬場和久
平林康
福川原敏憲
御手洗実
宮本哲伸
宮良信道
三好啓司
三輪慶八
村上稜真
守田敏和
守田陽子

古代ロマン
光のキセキ
石顔
落ち葉布団
静寂
魅惑の屈折光
夜かぐら
いのちのバトン
水無月の宝石
神里の原風景
虎視眈々
さつきの水面
桜花の女
森が暮れる刻
森の妖精
フェイス
お面さま
スマつけ祭り

デザイン部門

特選

延岡市長賞



見た目じゃないのよ 野菜は(イラストレーション)

岩本楓

講評 タコ足のような大根は葉っぱも含めてみずみずしく緻密に描かれ、さらにレタリングの文字ともコーディネートされていて、遠くから観てもど迫力です。

入賞作品

無鑑査

努力賞

大塚羽未

富嶽三十七景(イラストレーション)

木田柁子

pandemic(グラフィックデザイン)

入選者

梅木三千世
小野泉
権藤昭穂

今ここを生きる
water surface
自分らしい姿

グラフィックデザイン
グラフィックデザイン
イラストレーション

玉木藍子
中川飛鳥

野鳥
地球ブルーハワイ

イラストレーション
イラストレーション



デザイン部門審査員
小寺 尚 (4回目)

宮崎大学名誉教授
元(公社)日本グラフィックデザイナー協会理事・

いちばん近いアート展



審査講評
【絵画部門】

講評

出品者の皆さんは、長く続くコロナ禍のなか制作にも大変ご苦勞をされたかと思いますが時間をかけた力作に出会い感銘いたしました。また多くの展覧会が休止や縮小するなかで開催を実施された主催者の皆さんのご努力には頭が下がります。

『ホームステイ「玄関にて」』山崎郁夫さんの作品は、しっかりとした構成力をもとに構図が生まれ、無機的なコンクリートの壁と有機的な沸き立つ雲の対比が素晴らしく特選・延岡市長賞に選ばせていただきました。

『夢想』上原順子さんは、ブルーを基調色とした画面のなかにイエローの色調を上手く構成し手の表情によって物語性を感じさせる完成度の高い作品です。

『戦後の日本「笑顔」戦火のウクライナ「悲涙」』眞田昌良さんは、戦後日本のご自身の体験とウクライナの悲惨な現状をダブルイメージし光り輝くひまわりを希望のシンボルとして中央に構成した社会性のある力作でした。

入賞者のなかでプラチナ賞・91歳の塩月眞さんの作品は、素朴で心癒される風景であり印象深く記憶に残る作品でした。たたずむ人物は牧水かと想像しますが、素朴派の巨匠アンリ・ルソーの作品を思い起こす素敵な作品です。

選考終えての感想としては、選外にも完成度のある素晴らしい作品が多く歴史ある延岡市美術展のレベルの高さを確信いたしました。今後は抽象画や版画やサブカルチャーなど少しバリエーションがあり若い世代の出品者が増えてくると良いですね。

皆さん、今後もお自身の作風を大切にしてください。

絵画部門審査員

古本 元治
東亜大学芸術学部客員教授
九州産業大学名誉教授



審査講評
【彫刻・工芸部門】

講評

71回展を昨年に引き続き審査させて頂きました。まずは、展覧会を主催された関係者の皆様本当にご苦勞様でした。並びに多数の力作を出品して頂きありがとうございました。私の担当部門は素材、表現技法も多岐に亘っているため一点ずつ確認を行い慎重に審査させて頂きました。

昨年の審査講評にも掲載しましたように創作の要素である素材、それを加工する技術、形や色彩の基となる表現意図の3つの観点を基準に選考致しました。

最初に苦慮したのは入選数の枠が定められており断腸の思いで入選数の絞り込みを行いました。以下入賞作品の講評と致します。

*特選「兜」の出品者の方は、昨年も出品されており講評の折に構図についてのアドバイスをさせて頂きました。今回はそのアドバイスを真摯にお受けになり格段の造形力の向上が見られます。

*準特選「さがり花」は手描きの友禅染です。陽が落ちる頃に花を咲かせ夜明けには散る「まぼろしの花」の姿を的確な筆使いで生地に留めておられます。

*奨励賞「老いてなお美しく」は繊細な刺繍の技法で老木に開花した桜を衝立の中に微妙な遠近感を用いて表現されています。

*奨励賞「積木あそび」はパッチワークのデザインルールに留まらない自由さが感じられ目に留まりました。

*奨励賞「一樹百穫」は銀材の板を加工し、石留めをおこなっているジュエリーです。本体の重さとチョーカーのバランスに問題は残りますが、今後百倍の収穫が期待できる作品です。

*努力賞「ハートの贈り物」は淡い色彩の中からほのかに浮かび上がるハートの形が印象的です。個人的にはハートの形よりその周辺の装飾文様に興味を惹かれました。

*プラチナ賞「ウメの花」はちぎり絵の技法を用いた作品ですが、技術的に難しいと思われる小さくて繊細な花の部分の表現が見事です。



彫刻・工芸部門審査員

筒井 知徳
九州産業大学造形短期大学部 高大接続アドバイザー
公益社団法人 福岡県美術協会 監事

審査講評

【書道部門】

講評

昨年の第70周年記念展に続き、今年の第71回展の審査は、出品作の一点一点の作品から作者の真摯な取り組み、指導者の熱意が伝わってきました。漢字作品は形式にとらわれず、古典を踏まえた作であり、十分な期待ができると感じました。仮名作品は少ない中にもどの作も格調があり、見応えのある作でした。

日々の研鑽と努力、精進を重ね、楽しく取り組んでいただき、来年度も期待しております。

(特選)延岡市長賞 小野 静氏

張瑞図を基調とした行草三行の作は、運腕大胆から生まれる造形の躍動感と文字群、落款まで一貫した気脈、錬度の高い作。

(準特選)延岡市教育長賞 伊藤 由美子氏

冴えた線條、美しく流麗の中に表現された集団と余白の美、大字の大胆な散らし、格調ある作。

(準特選)延岡市文化連盟会長賞 甲斐 かおり氏

穏やかな線條で淡々と書き進めた安定感のある作。王羲之の「十七帖」の線の省略を入れると一味違った作風が生まれるかもと期待しています。

書道部門審査員

二宮 欣山

日展会友・読売書法会理事

日本書芸院参与



審査講評

【写真部門】

講評

バラエティに富んだ楽しい作品をたくさん拝見しました。しかし今回も少し期待を裏切られた感がないでもありません。何かというと、撮影してそこに記録されたものばかりで、それ以外の創作性が感じられる作品がほとんど見られなかったことです。一瞬を写し取ることこそが、他にない写真の特性なのですが、それだけではなく、芸術性という観点から仕上げられた作品を期待したのですが、それがありませんでした。写真が発明されて以来、先人達はその手法を用いて、自分ならではの表現を求めて努力し、作品を作り上げてきたものですが、その写真が今日のデジタルに置き換わって以降、どういう訳か逆にあまり見られなくなりました。記録性を一番のよりどころとする報道写真や動植物の生態写真などには合成などによる嘘があってはなりません、このような写真の祭典ともいえるような場所に出品する作品であれば、単に写真として完成度の高いものを求めるより、もっと冒険的な表現を目差して挑戦していることのような作品も見せて頂きたいものです。

特選 溪谷のイルミネーション

近年よく目に入る乱舞するゲンジボタルを撮影した作品ですが、これほど素晴らしい情景描写がなされた写真に出会えたのは初めてと言ってもよいほどの出来映えです。ホテルの乱舞する光と下を流れる川との構成バランス、ほど良い明るさ(暗さ)で描写された風景の中に浮かぶ無数の光、立体感、奥行き感を伴って、画質の優れた素晴らしい風景作品となっています。

準特選 旅立ち

健やかに微笑む少女の傍らに、幼児期に元気に遊ぶ姿をスナップした写真を添えて、時間をひとつにまとめた記念写真といってよいものですが、人物や道具の配置など、構成の巧みさなどにより、単なるファミリー写真に終わらない優れた作品となっています。

準特選 二人だけの径

全体に早春の空気感が漂う描写がすばらしい。しかしただそれを撮影しただけでは雰囲気を描きただけの平凡な風景写真で終わるところを、必要な場所に赤い傘をさす人物を配置して立体感を持たせるなど、にくい演出が光る作品に仕上がっています。

準特選 銀河アイランド

上空に煌めく湾曲した銀河と地上の景色とをうまく合わせた構図が素晴らしい。ただ欲を言えば、銀河が中心の構成であることを考えると、地上をもう少し暗くした方が、さらに星座が目立つことになり、引き締まった作品になっていたはずである。

準特選 婆ちゃんの秋

人物写真の善し悪しはモデルによるところが大きいと言われますが、この作品ではそれだけではなく、この作業が見える動作や表情から、この老女がこれまで歩んで来た人生を思い起こさせるような、じっと見ている、なにかを感じさせてくれるものが映し出されているような気がします。

写真部門審査員

栗林 慧
生物生態写真映像作家



審査講評 【デザイン部門】

講評

出品数は少なかったが入選作に限らず表現技法や素材も多様で力作ぞろいでした。

特選の「見た目じゃないのよ 野菜は」にはドキッとしました。タコ足のような大根は葉っぱも含めてみずみずしく緻密に描かれ、さらにレタリングの文字ともコーディネートされていて、遠くから観てもど迫力です。おりしも、ある選挙でエライ人の「ルックスがいいから高得票」云々の話も伝わりましたが、この作品から色々と考えさせられることが多くあります。

「富嶽三十七景」には数百年前の北斎も驚くかも知れません。高速度カメラで撮影したかのような浪裏の富士を描いた天才も、今日のプラスチックなどで汚染された海だけは想像だにしなかったでしょう。捕食者のクジラもお困りではと懸命に釣り竿でゴミ釣りをして少年たち？を笑えない。汚いはずのゴミを見事なトーンの色彩で表現しているのは北斎も脱帽間違いなし。完成した時にはヤッターという達成感もあったことでしょう。どちらが特選かは今でも迷っています。明日にでもデザイナー誕生か。

他にも入賞作品に引けを取らない作品が多くありました。

十数羽の「野鳥」が色鉛筆を活かして表現されている作品は、個々の野鳥が愛情を持って精密描写されています。梅の小枝も美しいアクセントになっていますがやや教材の図鑑的表現になっているところが惜しまれます。温暖化のテーマでは「地球ブルーハワイ」があります。クールなドリンクで地球もここで一休みを、と主張されているのかもしれませんが。墨流し技法で「今ここを生きる」という力作があります。レベルの高い哲学的命題を問いかけています。ジェンダーの課題でも今日的な問いかけを「自分らしい姿」で追求した作品、ホログラムのような新素材を使い「water surface」で新しい視覚的試みや、若々しい「希望～私の願い～」などもありました。

公開「審査講評」も楽しい場になりました。参加者全員で作品と対話し、考えや意見をお互いにぶつけ合うことができました。なかでも制作者自身の主張も聞けたことは勉強になりました。

デザイン制作では次のような考え方を提案します。

1. 楽しい表現をいつも心がける。
2. 自分らしさを追求し、他のデザインを真似しない。
3. 自分の作品をいつも見える場所に置き繰り返し観る、飽きがくるまで観る（次はこうすればと気がつくことがある）。
4. デザイン的な完成度をあまり期待しすぎない。

デザイン部門審査員

小寺 尚
宮崎大学名誉教授
元(公社)日本グラフィックデザイナー協会理事



■第71回延岡市美術展覧会 出品状況

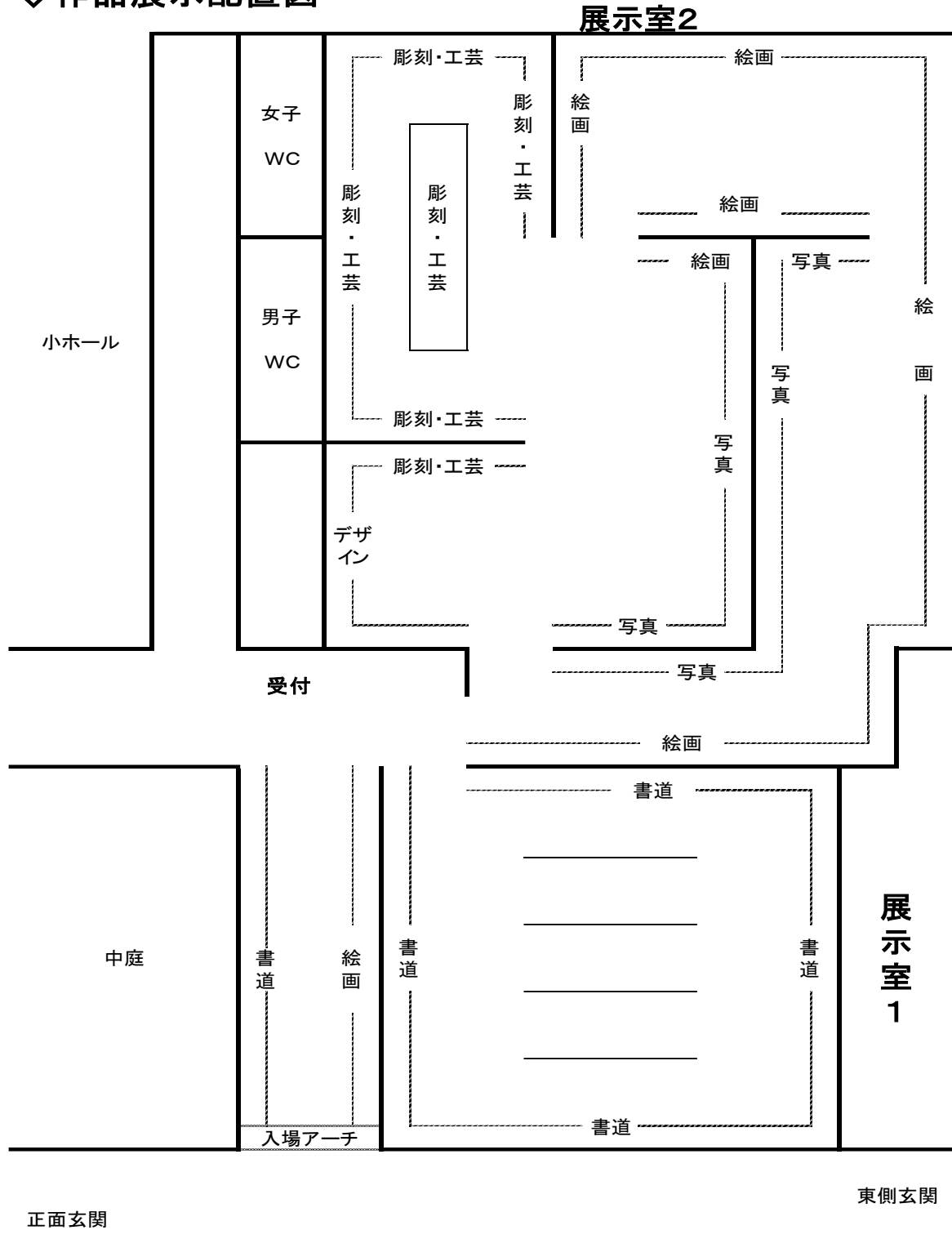
部 門	出品者数			出品作品数			C 招待作家 無鑑査	合計 (無鑑査等含む)		展示作品数	
	A	うち2点 出品者	うち3点 出品者	一般	学生	B 小計		出品者数 A+C	作品数 B+C	入賞 +入選数	無鑑査等を 加えた展示数
絵 画	60 人	13 人	0 人	69 点	4 点	73 点	4 人	64 人	77 点	45 点	49 点
彫刻 工芸	38 人	3 人	2 人	45 点	0 点	45 点	4 人	42 人	49 点	29 点	33 点
デザイン	9 人	0 人	0 人	4 点	5 点	9 点	1 人	10 人	10 点	7 点	8 点
書 道	43 人	5 人	0 人	45 点	3 点	48 点	8 人	51 人	56 点	33 点	41 点
写 真	95 人	31 人	7 人	141 点	1 点	142 点	2 人	97 人	144 点	73 点	75 点
合 計	245 人	52 人	9 人	304 点	13 点	317 点	19 人	264 人	336 点	187 点	206 点

- ◆招待作家 全国規模の公募展で、顕著な成績を残された方
- ◆無 鑑 査 延岡市美術展覧会の第25回展（改組第1回：昭和50年度）から
起算して、「特選」（延岡市長賞）および、周年記念の大賞、
特別賞を通算3回受賞された方

■第71回延岡市美術展覧会 賞の名称一覧

特 選	延岡市長賞
準特選	宮崎県知事賞 宮崎県教育長賞 延岡市教育長賞 延岡市文化連盟会長賞
奨励賞	延岡市議会議長賞 旭化成(株)延岡支社長賞 清本鐵工(株)社長賞 ケーブルメディアワイワイ賞 センコー(株)東九州主管支店長賞 延岡観光協会賞 延岡市医師会長賞 延岡市歯科医師会長賞 延岡商工会議所会頭賞 延岡市西臼杵郡薬剤師会長賞 延岡農業協同組合代表理事組合長賞 宮崎日日新聞社賞 夕刊デイリー新聞社賞 延岡市美術展覧会実行委員長賞 (50音順)
努力賞	※本市美展または他の美術展等で入賞歴のない方を対象とします。
プラチナ賞	※満80歳以上の方を対象とし、入賞歴は問いません。

◇作品展示配置図



■審査講評のようす



出品者のみなさまへ
この度はご出品いただきありがとうございました。
次回も力作のご出品を心よりお待ちしております。

延岡市美術展覧会実行委員会 一同

第71回延岡市美術展覧会

会 期 : 令和4年7月14日(木)～7月30日(土) 9:00～17:00
会 場 : 延岡総合文化センター 展示室1・2 ※毎週火曜は休館日です
主 催 : 延岡市美術展覧会実行委員会、延岡市、延岡市文化連盟
共 催 : 延岡市教育委員会
協賛・後援 : 宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市議会、旭化成(株)延岡支社、清本鐵工(株)
(株)ケーブルメディアワイワイ、センコー(株)東九州主管支店、(一社)延岡観光協会
(一社)延岡市医師会、(一社)延岡市歯科医師会、延岡商工会議所
(一社)延岡市西臼杵郡薬剤師会、延岡農業協同組合、宮崎日日新聞社、夕刊デイリー新聞社
(50音順)
